

中国とASEANの金融協力



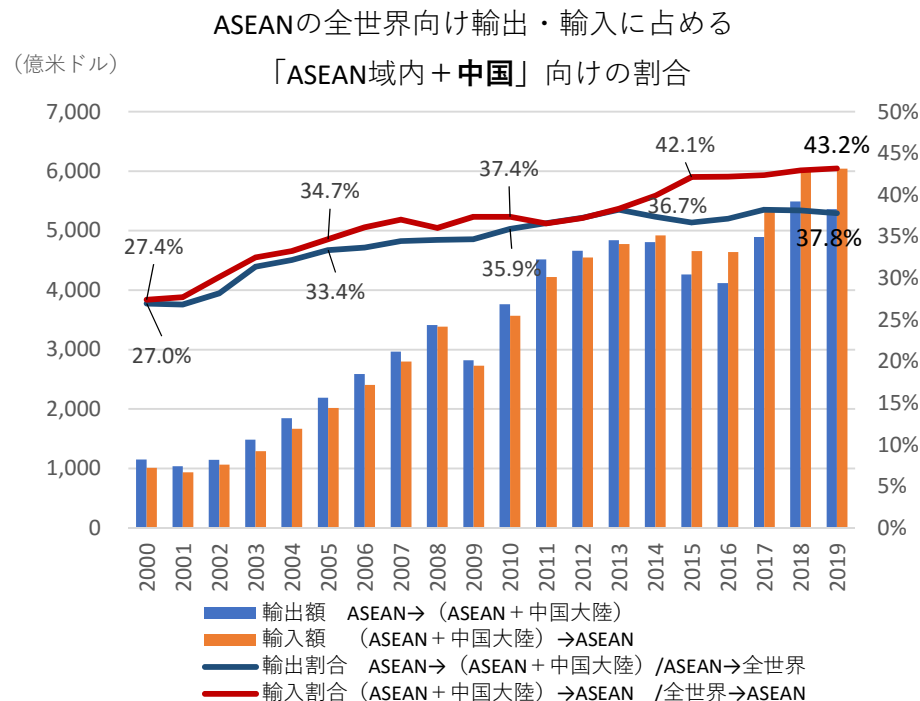
2020年11月4日
財務総合政策研究所
主任研究官兼特別研究官
富澤 克行



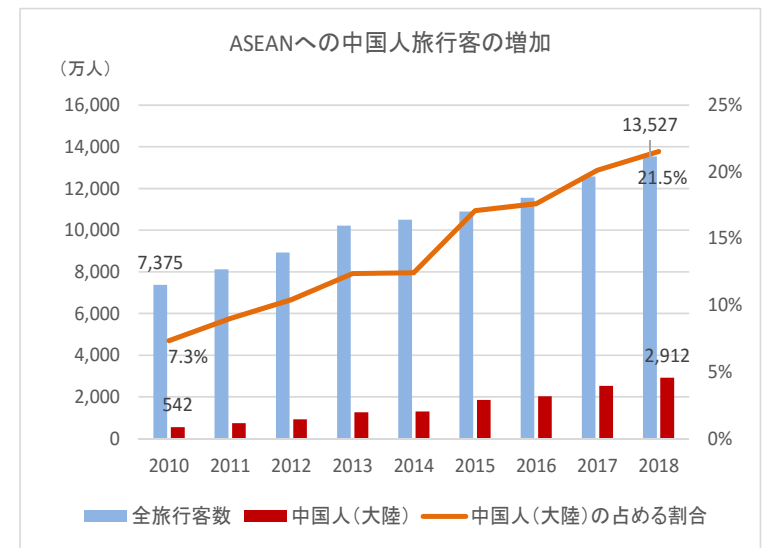
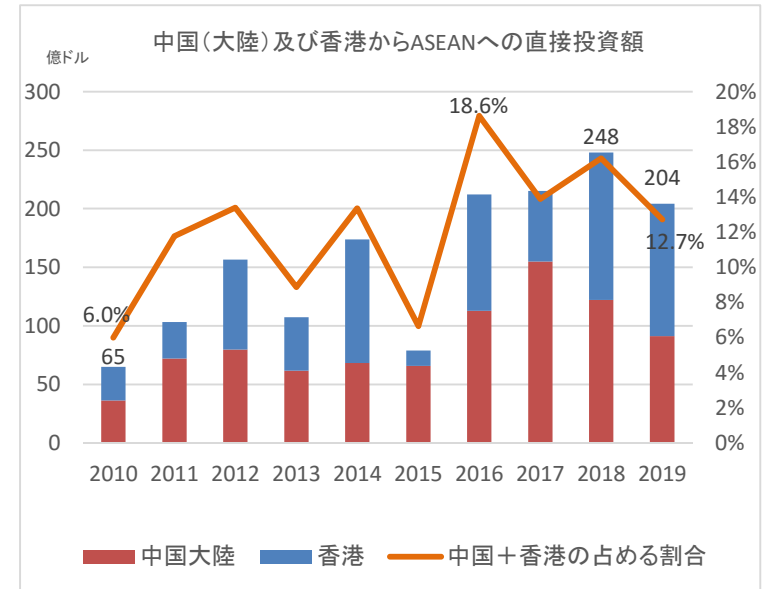
本プレゼンテーションの内容は全て個人的見解であり、財務総合政策研究所の公式見解を示すものではありません。

1 中国とASEANの経済面の接近(10+1化)

- ✓ 貿易、投資、人の往来でASEANと中国の10+1化が進む→米中摩擦・対立で更に
- ✓ 中国から見てもASEANは、米国、EUを上回り、貿易額の最も多い地域に
- ✓ 他方、ASEAN側には中国(、米国)に対する心理的距離



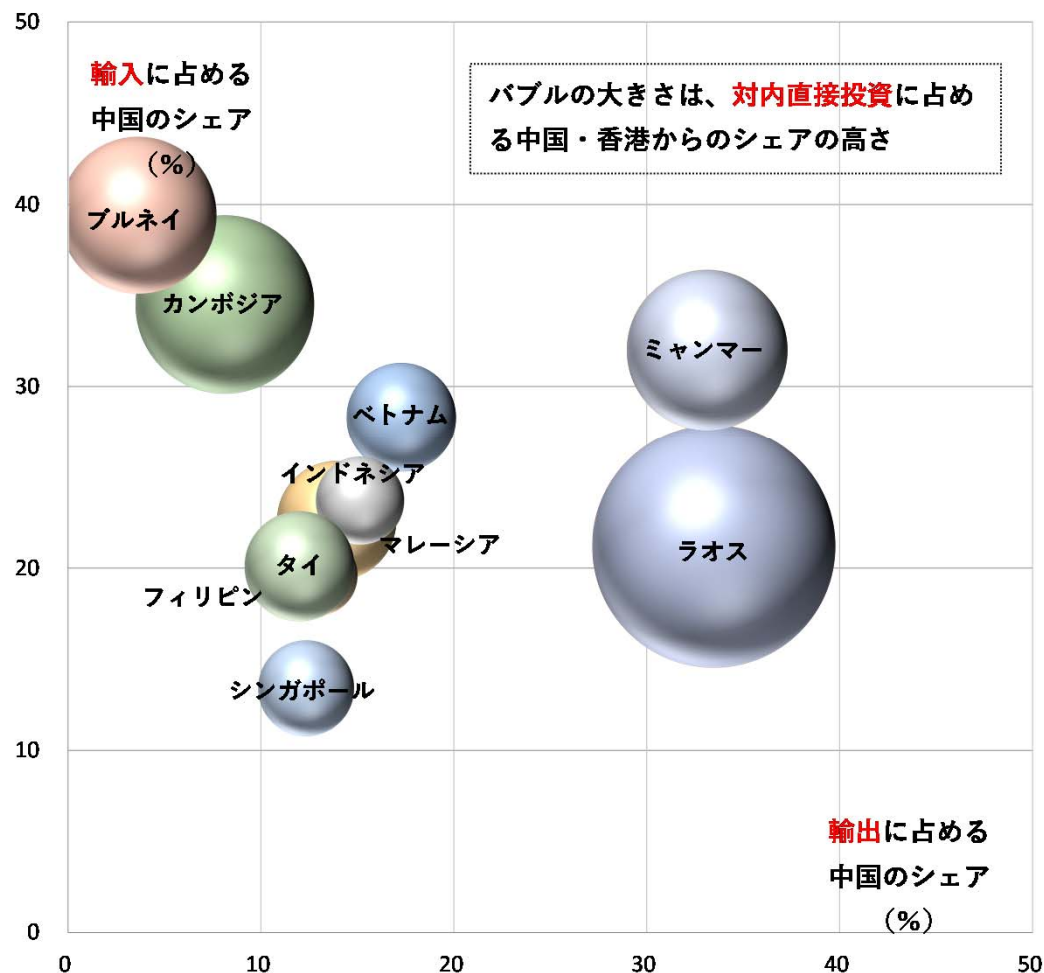
(出所)IMF DOTSから作成



(出所)ASEAN Statsから作成(直接投資、旅行客)

ASEAN各国における 経済面での中国のシェア(2018年)

ASEAN各国の中国経済への依存度（輸出入・投資）



(出所) ファイナンス2019年9月、富澤作成

ASEAN各国の貿易に占める「ASEAN域内 + 中国」向けの割合

(2018年、%)

	輸出			輸入		
	域内	中国	10 + 1	域内	中国	10 + 1
シンガポール	29.5	12.3	41.8	21.2	13.4	34.6
マレーシア	28.6	13.9	42.5	28.9	22.6	51.5
タイ	27.1	12.0	39.1	18.2	20.1	38.3
インドネシア	23.4	15.1	38.5	23.9	23.7	47.6
フィリピン	16.0	12.9	28.9	25.0	19.6	44.6
ベトナム	10.4	17.3	27.7	13.7	28.3	42.0
ブルネイ	28.1	3.6	31.7	32.4	39.4	71.8
カンボジア	5.9	8.1	14.0	40.0	34.5	74.5
ラオス	51.9	33.5	85.4	68.8	21.2	90.0
ミャンマー	25.0	33.1	58.1	44.6	32.0	76.6
ASEAN 全体	24.2	14.0	38.2	22.0	20.9	42.9

(出所) IMF

(注) は域内よりも中国との割合の方が高い部分。

ASEANの対内直接投資に占める
「中国 + 香港」からの投資の割合

(2010~2018年の平均値、%)

	中国	香港	中国 + 香港
シンガポール	6.6	3.2	9.8
マレーシア	4.2	10.9	15.1
タイ	4.6	8.3	12.9
インドネシア	4.7	3.6	8.3
フィリピン	0.7	6.2	6.9
ベトナム	5.3	7.4	12.7
ブルネイ	0.0	26.2	26.2
カンボジア	24.7	9.2	33.9
ラオス	61.4	1.5	63.0
ミャンマー	21.3	6.0	27.4
ASEAN全体	6.5	5.1	11.6

(出所) ASEAN

ASEAN各国への中国大陸からの旅客数
とその割合 (2018年)

	中国大陸からの 旅客数 (万人)	全インバウンド旅 客に対する割合
シンガポール	342	18.5%
マレーシア	294	11.4%
タイ	1,054	27.5%
インドネシア	214	13.5%
フィリピン	126	17.6%
ベトナム	497	32.0%
ブルネイ	7	23.6%
カンボジア	202	32.6%
ミャンマー	96	27.1%
ラオス	81	19.2%
ASEAN全体	2,912	21.5%

(出所) ASEAN

中国から見たASEANの重要度(コロナ禍の変化)

2020年(1-7月)						
国地域	輸出(億ドル)		シェア	輸入(億ドル)		シェア
	輸出額	前年同期比(%)		輸入額	前年同期比(%)	
米国	2,213	▲ 7.3	16.6%	677	▲ 3.5	6.1%
EU	2,092	0.7	15.7%	1,335	▲ 8.5	12.1%
ASEAN	1,988	2.2	14.9%	1,580	4.3	14.3%
シンガポール	315	9.2	2.4%	170	▲ 13.0	1.5%
マレーシア	281	▲ 1.8	2.1%	403	2.5	3.6%
タイ	275	10.5	2.1%	266	2.7	2.4%
インドネシア	219	▲ 11.6	1.6%	201	6.3	1.8%
フィリピン	205	▲ 7.0	1.5%	99	▲ 12.9	0.9%
ベトナム	572	8.5	4.3%	380	25.1	3.4%
BCLM	122	▲ 4.4	0.9%	60	0.5	0.5%
香港	1,379	▲ 9.3	10.3%	35	▲ 33.6	0.3%
台湾	324	7.2	2.4%	1,025	9.1	9.3%
日本	793	▲ 3.0	5.9%	950	▲ 1.5	8.6%
韓国	619	▲ 4.3	4.6%	946	▲ 4.6	8.5%
インド	75	▲ 19.8	0.6%	102	▲ 34.2	0.9%
	13,364	7.2	100.0%	11,063	▲ 1.4	100.0%

(参考)

2019年(伸び率)	
輸出	輸入
前年比(%)	前年比(%)
▲ 12.5	▲ 20.9
4.9	1.1
12.7	5.0
11.6	4.4
14.9	13.6
6.3	3.4
5.7	▲ 0.3
16.3	▲ 2.0
16.7	0.3
15.9	25.2
▲ 7.6	6.9
13.2	▲ 2.6
▲ 2.6	▲ 4.9
2.0	▲ 15.2
▲ 2.4	▲ 4.5
7.6	16.3

(参考)

2017年(シェア)	
輸出相手国地域	輸入相手国地域
19.0%	8.4%
16.4%	13.3%
12.3%	12.8%
2.0%	1.9%
1.8%	2.9%
1.7%	2.3%
1.5%	1.6%
1.4%	1.0%
3.1%	2.7%
0.7%	0.4%
12.3%	0.4%
1.9%	8.4%
6.1%	9.0%
4.5%	9.6%
3.0%	0.9%
100.0%	100.0%

(出所) 中国商務部

[輸出]

+: マスク外交(必需品輸出)、ASEANの製造業の代替
▲: ASEANの内需減、生産減、インフラ建設減

[輸入]

+: 中国の生産への部品等供給増、ASEAN不振国を生産継続国が肩代わり
▲: ASEANの生産減

中国のASEANとのモノの輸出入取引はASEAN側の不調もあり、19年より伸びは落ちているが、中国と欧米、日・韓との取引が前年比マイナスになる中で、相対的にASEANのシェアが上昇

2 中国とASEANの金融面の協力

- ✓ 基本コンセプトは、現地通貨が主導し、金融が実体取引（貿易、投資等）を支える
- ✓ 人民元の国際化、米ドルに過度に依存しない取引促進（金融制裁に対する懸念）

■ 現地通貨建スワップ（人民元とASEAN通貨のスワップ取極め）： 星、馬、泰、尼

※ 星には、星市場で人民元の短期流動性を供給する枠組みが存在

（参考）人民元クロスボーダー受払金額 相手国・地域別シェア（2019年） （出所）人民元国際化報告2020

①香港 44.9%、②星 10.3%、③独 3.4%、④台湾 3.3%、⑤マカオ 3.2%、⑥日本 3.1%

■ 現地通貨決済を推進する合意（中銀間）： 尼、越、老

■ 直接交換市場：中国国内 ①上海CFETS：人民元vs 星ドル、馬リングット、泰バーツ

②広西銀行間市場地域取引：人民元vs 越ドン、カンボジアリエル等

2019年5月末現在、15銀行が参加

（参考）中国の銀行間外為スポット市場での人民元の対各通貨取引額（2019年）

米ドル	ユーロ	日本円	香港ドル	英ポンド	豪ドル	韓国ウォン
525,157億元	13,638億元	3,549億元	1,919億元	776億元	658億元	114億元
星ドル	馬リングット	泰バーツ	柬リエル	越ドン		
1,332億元	26億元	282億元	0元	30万元		

（出所）中国人民銀行 貨幣執行報告（2019年第4四半期版）

※CFETSは銀行間為替取引市場の星ドル、馬リングット、泰バーツ、韓国ウォン等12通貨の取引手数料を今後3年間免除との報道(8/3)

ASEAN側でも、比で人民元銀行間取引市場を作る流れ（クリアリング銀行の活用？）

○中尼の中銀間で20年9月末に、人民元・ニルピアの直接為替クォートと銀行間取引の推進を含む、現地通貨建て貿易・直接投資の決済の積極的推進に合意(ASEANのLCSF（現地通貨決済フレームワーク）、日尼間の取組みに類似か)

中国のASEAN各国との金融協力一覧(2020年10月現在)

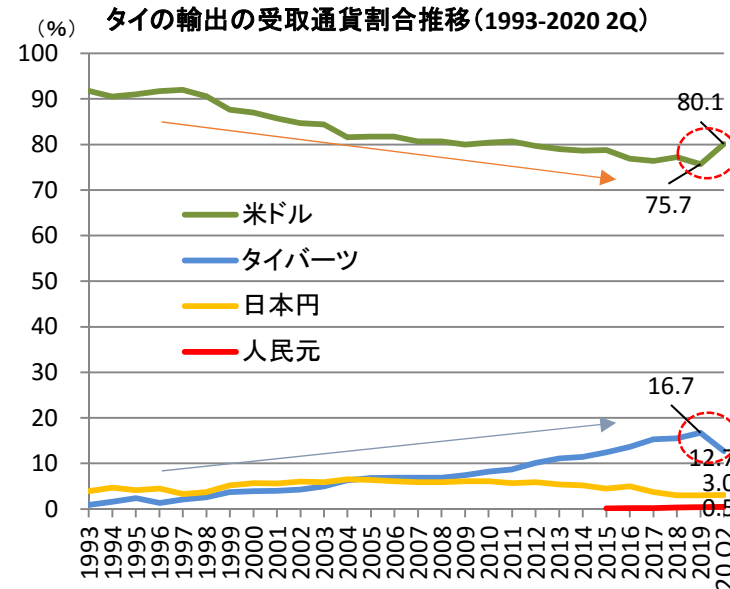
	シンガポール	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	ブルネイ	カンボジア	ラオス	ミャンマー
現地通貨建 スワップ	3,000億元/ 610億星ドル	1,800億元/ 1,100億馬リ ンギット	700億元/ 3,700億バー ツ	2,000億元/ 440兆ルピア	—	—	—	—	—	—
現地通貨決済 推進合意	—	—	—	○(注1)	—	○(注1)	—	—	○(注1)	—
クリアリング 銀行	工商銀行 星支店	中国銀行 馬支店	工商銀行 バンコク支店	—	中国銀行 マニラ支店	—	—	—	—	—
直接交換	中国国内	○	○	○(注2)	—(注2)	—	○(注2)	—	○(注2)	△(注2)
	ASEAN側(※)	—	—	—	—(注3)	○(注3)	○(注3)	—	—(注3)	—
(参考)										
人民元外貨準備	○	—	○	○	○	—	—	—	—	—
RQFII枠(2019年9月廃止)	500億元	500億元	500億元	—	—	—	—	—	—	—
その他	(参考)星市場には人民元の短期O/N流動性供給の仕組み(50億元)、人民元クリアリング参加行向け1週間/1か月の人民元貸出、貿易目的(3か月)の人民元貸出のファシリティあり		(注2)11年、雲南省で元・パーツの銀行間地域取引開始、その後上海CFETSに取引拡大	(注1～3)20年9月、經常資本取引での現地通貨決済に合意、元・ルピアの直接交換レートと銀行間取引を推進	(注3)比商銀13行と中国銀行マニラ支店が18年10月、元・ペソ直接取引市場設立合意(参考)比政府は中国国内で人民元建債券(パンダ債)を18年に14.6億元、19年に25億元発行	(注1、注3)經常資本取引で現地通貨決済合意あり。越北部国境7県で人民元建て決済が自由化(注2)11年に広西で元/ドンとの取引開始(注3)越側でもドン/元のレートクォートが行われている模様		(注2)17年に広西で元・リエルの取引開始、上海CFETSではなく、地域取引(注3)カ中銀は中国銀行と工商銀行に人民元決済機関としての取扱いを許可、13の商銀に人民元での取引を許可(17年)	(注1)20年1月に中銀間で經常資本取引で現地通貨決済合意(注2)11年に昆明で元・キープの相対取引開始	(参考)19年1月、人民元が(日本円とともに)緬の決済通貨として指定

(※) ASEAN側の直接交換は、人民元との為替取引レートのクォートが実施される等、明示的な取組みが行われている場合を○としている。

(出所) 中国人民銀行 貨幣執行報告、人民元国際化報告2020等から富澤作成

(参考) ASEANの中での現地通貨選好の傾向

- ASEAN域内に資本・為替規制が残る中、米ドルが国内流通、貿易決済通貨として利用
→不安定な為替レートの影響
→過度な米ドル依存の修正
- ✓ 馬、尼では 本国通貨(決済)化の規制導入・強化(緬でも?)
- ✓ カンボジア、ラオスでは脱ドル化(カンボジアでは中銀デジタル通貨バコンを正式採用)
- ✓ 越北部で人民元決済自由化(18年6月)、緬では日本円、人民元が決済通貨に(19年1月)
- タイの場合、近年輸出入でのタイバーツ建て取引が増加。特にCLMVとの取引では高い割合(ただし、コロナ禍で米ドル建て輸出が増加)
- LCSFの枠組みによる貿易、投資での現地通貨利用促進の取組み(泰、馬、尼、比)
- インフラプロジェクトでも現地通貨(での返済)が好まれる傾向
- リテール・キャッシュレスの分野ではアリペイとWechatPayも域内に普及。他方、ASEAN由来のSuperApp (Grab、Gojek等)が台頭、一部決済・送金機能も持つように。星・タイでのQR決済(PayNow、PromptPay)接続等のトレンドも。
- 「タイ中銀と香港HKMAの中銀デジタル通貨(CBDC)の共同研究は第2段階に。第2段階の研究には両地の銀行間や企業間の越境貿易決済の実測実験を含む」(10月23日NNA)



タイのASEAN各国との輸出入受払のうち、
バーツの割合(%)

相手国	タイの輸出受取			タイの輸入支払		
	2010年	2019年	増減	2010年	2019年	増減
ラオス	56.7	64.4	+7.7	19.2	47.8	+28.6
ミャンマー	64.9	53.8	▲11.1	3.8	8.5	+4.7
カンボジア	43.0	38.0	▲5.0	52.0	12.3	▲39.7
ベトナム	9.3	20.9	+11.6	4.9	25.2	+20.3
フィリピン	5.5	29.6	+24.1	9.5	18.8	+9.3
インドネシア	10.7	19.3	+8.6	5.9	12.2	+6.3
ブルネイ	11.7	16.2	+4.5	0.0	0.7	+0.7
マレーシア	9.6	17.5	+7.9	5.5	8.6	+3.1
シンガポール	3.4	6.8	+3.4	2.4	7.8	+5.4
ASEAN全体	14.7	26.0	+11.3	5.7	14.1	+8.4

(出所)タイ中央銀行

3 中国ASEAN間の金融協力フォーラム

- ✓ 中ASEAN博覧会のマージンで、金融協力のフォーラムを毎年開催(過去11回)
- ✓ 2018年12月に発表された中ASEAN金融協力5か年計画を推進

- 中国と東南アジア各国は、中ASEAN博覧会を2004年から年1回南寧で開催。
南寧の地理的優位性(ASEANのゲートウェイ)、広西チワン族自治区の経済規模はメコンのASEAN1国に迫る(凌ぐ)規模。(博覧会には一帯一路の展示も多く、19年は域外招待国としてポーランドが参加)
- 陸海貿易新通道(中星の重慶CCIプロジェクト)、広西自貿試験区、工業団地協力(中馬、中泰)等の取組みの後押しも得て、博覧会を通じて広西や周辺省・ASEAN各国の発展に繋げる狙い
- 2009年からは博覧会期間中に、中国ASEANの金融協力フォーラムを開催。**2019年9月の第11回中国－ASEAN金融協力・発展サミットフォーラム & ASEANに向けた金融開放ゲートウェイ建設サミット**には、中国人民銀行の陳副行長、ASEANからはカンボジア中銀総裁、タイ、ラオス、ミャンマー等の中銀副総裁・局長クラスが参加。
- フォーラムの場では、**2018年12月に中央政府から発表された、広西自治区にASEANに向けた金融開放のゲートウェイを建設する総体方案**(『**広西壮族自治区建設面向東盟的金融開放門戸総体方案**』、**2023年までの5か年計画**)の実現を後押しするために、中国ASEAN地域内における貿易・投資等取引での人民元等現地通貨の使用促進や決済分野での協力等について、各国中銀・民間金融機関の意向を確認。
- 中国の政策性銀行(中国開銀等)や国有商業銀行幹部、地場銀行から、各行のASEAN域内での活動や協力の取組等が報告されたほか、広西の地場銀行とASEANの商業銀行間の戦略的合作協議のMOU署名や、中国銀行(香港)の東南アジア業務運営センター立ち上げ式等も行われた。



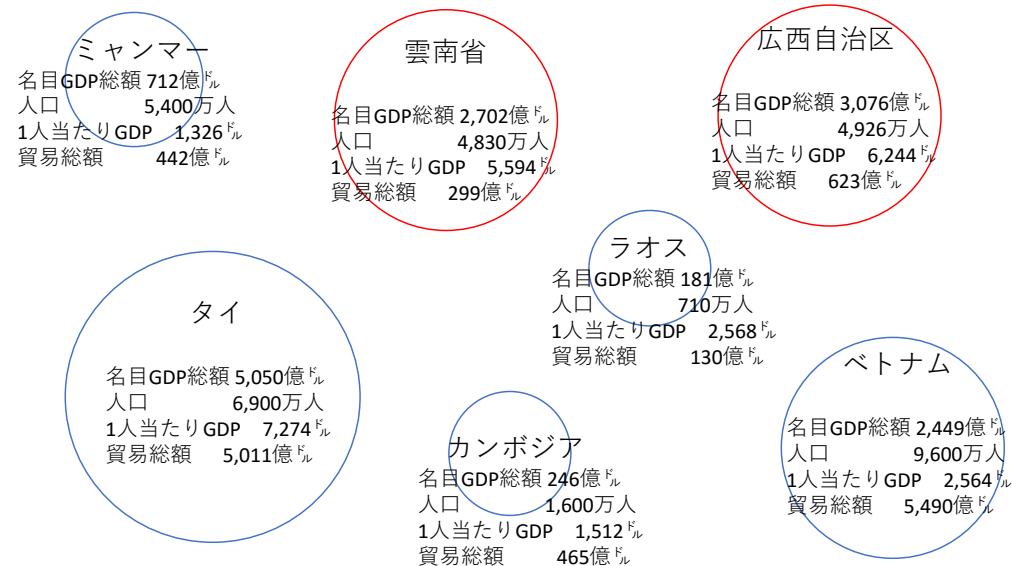


Copyright © 中国まるごと百科事典 <http://www.allchinainfo.com/>



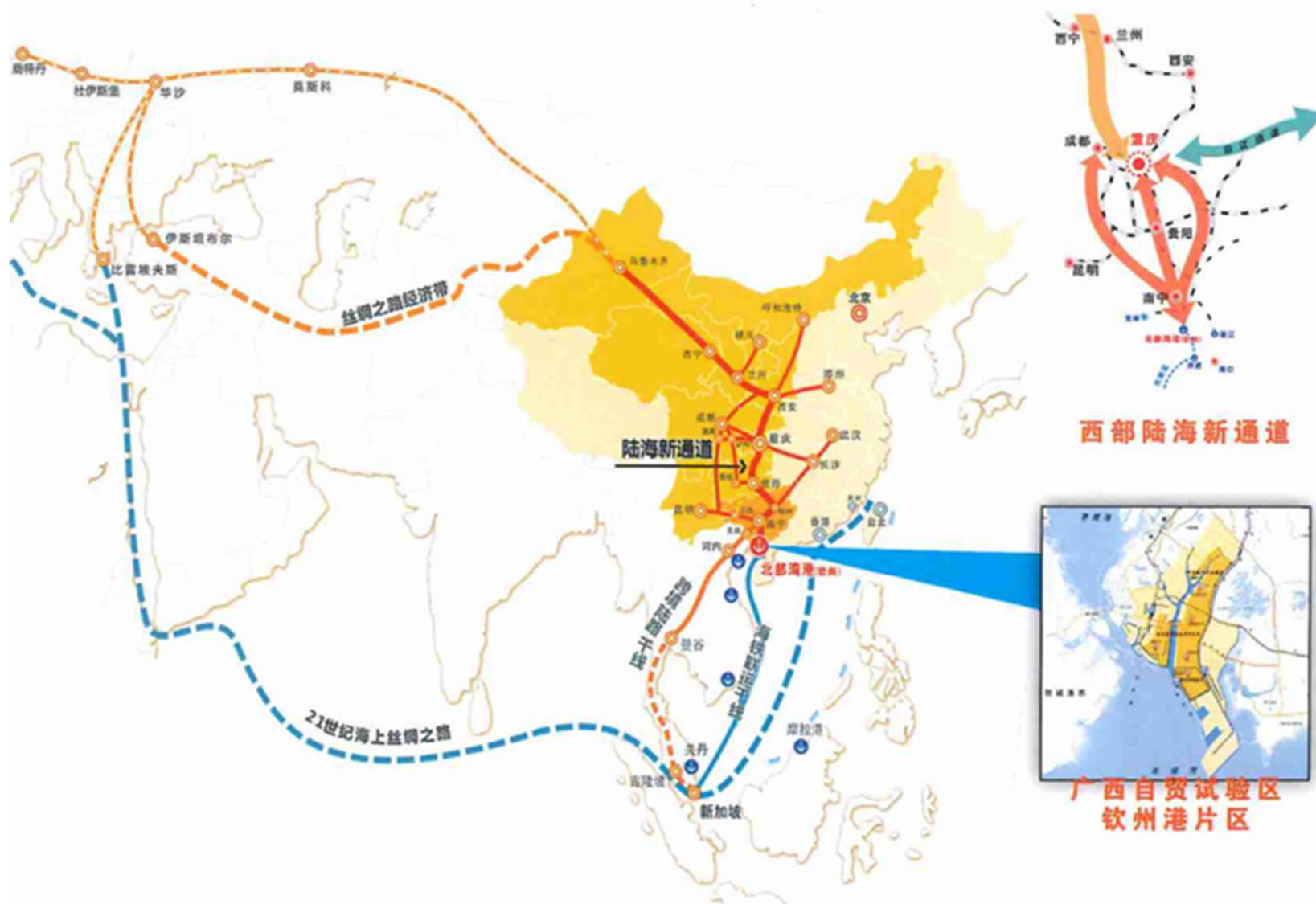
(出所) 地球の歩き方

メコン経済圏各国地域の規模 (2018年)



(出所: ジェトロ・アジア経済研究所石田正美氏の資料を参考に、世銀、中国統計から作成)

陆海新通道有机衔接“一带一路”示意图



(出所) 中国(广西)自由贸易试验区钦州港片区资料

〔参考1〕 中国－ASEAN金融協力発展サミットフォーラムの開催実績

- 第1回(2009年): 人民銀行蘇寧副行長、カンボジア中銀Chea総裁、ラオス中銀Phouphet Khamphoun総裁等が参加。
- 第2回(2010年): 中国輸銀朱鴻杰副行長、ラオス銀行業協会、ベトナム工商銀行の人材育成学校校長等が参加。中国－ASEAN銀行円卓会議を開催。
- 第3回(2011年): 中国銀監会蔡鄂生副主席、証監会姜洋主席助理、中国銀行李礼輝行長、建設銀行余静波首席審計官、中国光大銀行唐双寧董事長等が参加。
- 第4回(2012年): 会議のテーマは「中国－ASEANの信用情報市場」。民生銀行洪崎行長、フィリピン中銀Assistant Governor(名前不明)、ラオス中銀副総裁(名前不明)等が参加。中国－ASEAN信用情報研究中心の設立除幕式を実施。
- 第5回(2013年): 人民銀行易綱副行長(現行長)、北京銀行Yan冰竹董事長、アモイ金融管理局丁連星主席、カンボジア・カナディアン銀行Pung Kheav Se董事長等が参加。中国銀行が人民元とインドネシア・ルピアの現金為替レート揭示セレモニーを実施。
- 第6回(2014年): 中国工商銀行谷澍副行長、中国ASEANビジネス協会主席、中国ASEAN投資合作基金李耀総裁等が参加。農業銀行が人民元対ASEAN為替レート指数及び農銀ベトナム・ドン指数発表セレモニーを実施。中国銀行が人民元とカンボジア・リエルの現金為替レートクォートセレモニーを実施。また、建設銀行は中国ASEANクロスボーダー人民元業務推進会議を開催。
- 第7回(2015年): 会議のテーマは「中国－ASEANの資産管理」。人民銀行範一飛副行長、カンボジア中銀Chea総裁、ラオス中銀Vathana Dalaloy副総裁、建設銀行黄毅副行長、農業銀行李振江副行長等が参加。広西自治区と上海黄金取引所が戦略協力合意書に署名。
- 第8回(2016年): 会議のテーマは「中国－ASEANの金融を双方向に開放」。ベトナム工商銀行Li Ruhua副行長、北京銀行(Yan)冰竹董事長等が参加。中国工商銀行とカンボジア中銀が戦略的協力合意書に署名。中国輸銀と交通銀行が戦略的協力合意書に署名。中国郵政貯蓄銀行とベトナム工商銀行が戦略的協力合意書に署名。
- 第9回(2017年): 会議のテーマは「金融協力の深化、一帯一路を共に建設する」。カンボジア中銀Sun Sannisith副総裁等が参加。人民元とカンボジア・リエルの銀行間市場地域取引の開始式を実施。広西自治区と中国郵政貯蓄銀行が戦略協力合意書に署名。
- 第10回(2018年): 会議のテーマは「開放とイノベーション: 新時代の中国－ASEAN金融協力」。カンボジア中銀Chea総裁等が参加。南寧市政府と中国銀行香港有限公司による東南アジア業務運営センターを南寧に設ける意向書署名。桂林銀行とカンボジア・カナディアン銀行が戦略協力合意に署名。中国再保険集団株式会社とカンボジア国家再保険会社が一帯一路保険連合体の協力合意に署名。

4 中国ASEAN金融城の建設

- ✓ 南寧に中国ASEAN金融城(都市)を建設、金融機関、関連産業の進出を誘致
- ✓ (私見)他の金融センターとの重複、ASEAN側の懸念等も想定される

- 南寧に2023年までに「中国東盟金融城(中国ASEAN金融都市)」を建設する計画がスタート、中資及びASEANの金融機関の誘致も本格化(→完成時期は2025年に修正?)
(参考)計画では、2023年に金融機関と金融サービス企業200社の進出、金融就業者6万人を目指す
進出金融機関は145社(20年9月末現在)、年初から85社増。高層ビルは117棟建設(19年11月)

- 中国とASEAN地域を対象にした、人民元オフショア金融センター、通貨取引決済センター、クロスボーダー投融资センターを作ることが目標の1つ
- 人民元による貿易・投資取引の決済促進にとどまらず、投融资の際に人民元建てのクロスボーダー融資を増やすことや、グローバル企業向けの人民元プーリング業務の拡大等も意図
- 人民元とASEAN各国通貨について銀行間市場を通じた地域クォート取引を推し進めること、通貨現金為替のクロスボーダー移送メカニズムを完全にすることが目指される

※人民元の対ASEAN通貨の地域銀行間取引プラットフォームを継続して整備し、2019年5月末現在15の銀行が広西銀行間市場地域取引に参加

- 人民元債券の発行(中国国内のパンダ債、シンガポールのライオン債)で得た資金を、陸海新通道のプロジェクトに充てることも想定。ASEAN企業、投資家の中国政府債購入も奨励。
- 自貿区の実施とリンクさせながら、銀行業のみならず証券、保険等も含めた包括的な取り組み。グローバル企業が外貨資金を集中して運営管理できるように規制緩和することも含まれる。
- 金融城に金融情報サービス基地を作ること目標。中国ASEAN信息港(中国東信、China-ASEAN Information Harbor)の活動として、中国ASEAN金融情報データベース等のプラットフォームを作る取り組みも始動。中国とASEAN企業の信用格付や信用情報に関するデータを共有する取り組みも行われる模様。
- バックオフィス業務の集積、金融人材育成の基地、監督当局間の交流等の実施も計画



(出所)広西日報(20年7月)

[参考2]「金融開放ゲートウェイが広西の金融発展の新たな道のりを開く」 パネル展示

○2018年12月「広西チワン族自治区建設面向東盟的金融開放門戸総体方案」を中国人民銀行をはじめとする13部委連名で発出。

○9つの改革任務で、金融開放ゲートウェイの総体的な枠組みを構築。

- ①ASEANに向けたクロスボーダーの金融イノベーションを推進
- ②ASEANに向けたクロスボーダーの保険協力を強化
- ③クロスボーダー金融の協力交流メカニズムを整備
- ④金融サービス業の対内対外開放を拡大
- ⑤金融の実体経済へのサポートを強化
- ⑥良好な金融エコシステムの構築
- ⑦ASEANに向けた金融市場協力の強化
- ⑧クロスボーダー金融インフラ整備の推進
- ⑨人材が主導する金融発展メカニズムの整備

○金融改革の実施ルートを整えるため、2019年6月15日、広西チワン族自治区人民政府文件(桂政発[2019]32号)として、「広西チワン族自治府建設面向東盟的金融開放門戸五年実施規画(2019年－2023年)の通知を発出(※文書には「申請に応じて公開」との記載があるが、ホームページ上では公開されていない)。131の金融改革措置を確定し、当面及び今後一定期間の広西によるASEANに向けた金融開放ゲートウェイの総施工図を示し、指導するもの。

○重点改革の項目リストを作り、2019年の金融改革イノベーションのプロジェクト90項目(政策イノベーション、体制メカニズム建設、商品サービスイノベーション、産業発展、プラットフォーム建設の5分野)をリストアップ。

○広西の各地方毎に、金融空間の配置を最適化。条件に合う区、市、県からボトムアップの金融改革イノベーションを展開する。繰り返し使え、広められる経験方法を形作る。南寧市は中国－ASEAN金融城、崇左市はクロスボーダー保険サービス、欽州市はクロスボーダー園區金融サービスイノベーションといった形で、各地方毎に金融改革イノベーションの項目を設定。

○重要な金融プラットフォームとして、

- ①4つのモデル区(保険総合イノベーション、グリーンファイナンス改革イノベーション、クロスボーダー金融イノベーション、農村振興金融サービス)、
- ②4つの基地(金融運営サービス、ウェルスマネジメントサービス、金融情報サービス、金融交流トレーニング)、
- ③4つの中心(地域性の人民元オフショア金融センター、地域性の通貨取引決済センター、クロスボーダー投資サービスセンター、クロスボーダー金融仲介サービスセンター)
- ④4つの市場(中国－ASEANの商品現物取引市場、金産業投資市場、地域エクイティ投資市場、地域産権取引市場)の建設・整備を進める。

(出所)フォーラム会場周辺に掲示されたパネル説明から仮訳・作成

(参考) (中国が関心を示す)その他の地域イニシアチブ

- 瀾滄江(ランツァン)メコン協力
新国際陸海貿易新通道とのドッキング(20年8月)
- BIMP-EMGA(右図)
- スマートシティ、グリーンボンド
- デジタル貿易プラットフォーム(?)
× デジタル人民元

(参考) 第22回中国ASEAN首脳会議(19年11月3日、バンコク)
での李克強総理の演説(抜粋、出所: 中国通信)

○BIMP-EMGA関連

中国~ASEAN東部成長エリア協力は昨年、閣僚級に引き上げられており、双方が早期に「行動計画」を作成することを希望している。中国側はASEAN東部成長エリアのニーズに合わせ、一定額の無償援助を提供する用意があり、中国国家開発銀行はさらに50億ドルの中国~ASEAN東部成長エリア協力特別ローンを開設し、これを相互接続・民生・生産能力などの分野における双方の協力プロジェクトに使い、ASEAN共同体の発展をサポートする予定だ。



(出所) investvine, 2013

<https://i2.wp.com/investvine.com/wp-content/uploads/BIMP-EAGA.jpg>

○スマートシティ関連

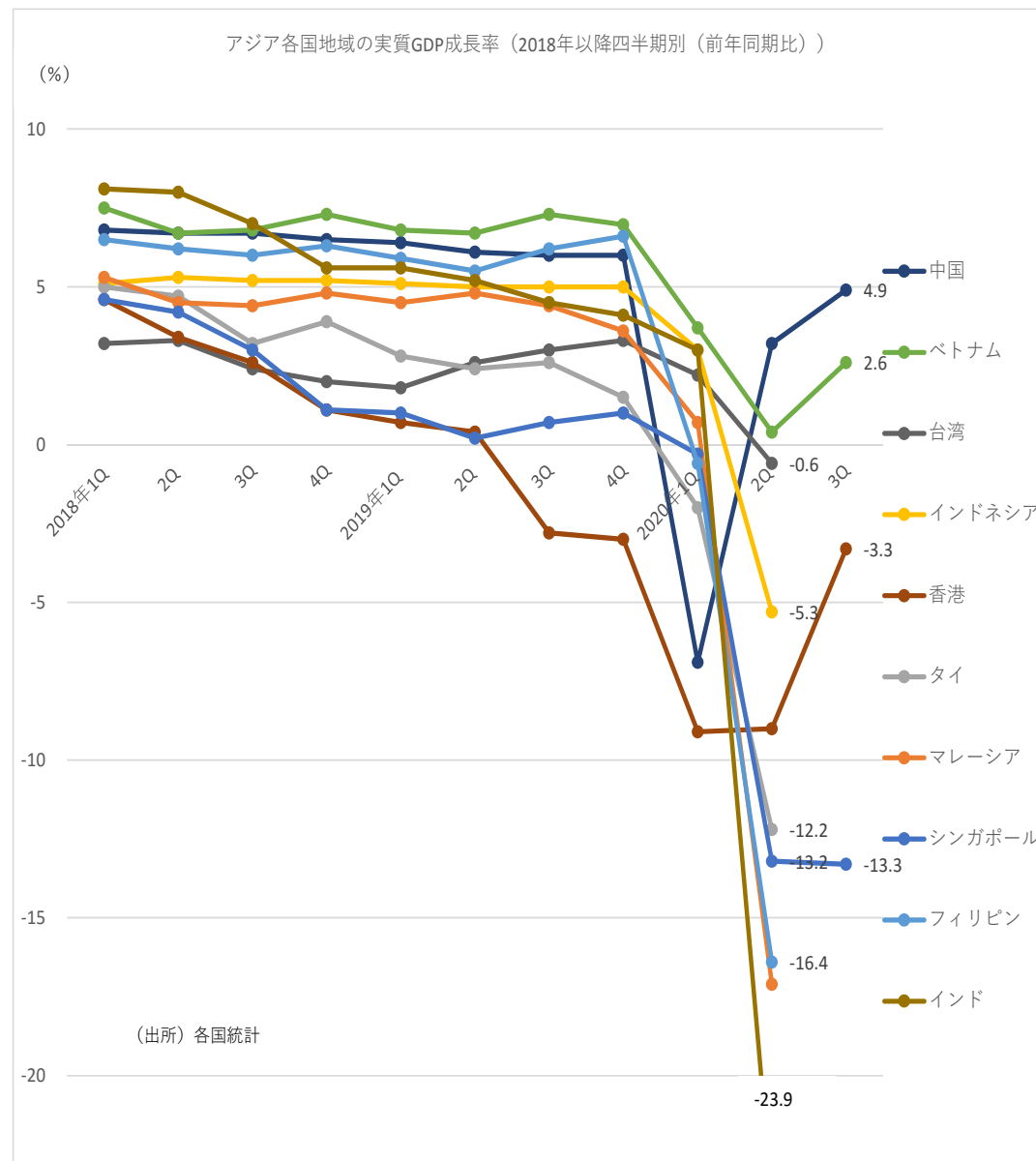
「中国~ASEANスマートシティー協力イニシアチブ指導者声明」が発表されることを歓迎し、中国の都市とASEANのスマートシティーがパートナー都市関係を構築することを支持し、政策の交流と標準・技術などの方面の協力を後押しする。我々は、深センとシンガポールが協力取り決めに調印し、済南、南寧、杭州、アモイなどの都市がASEAN加盟国の関係の都市と積極的にドッキングを進めていることを喜ばしく思っており、より多くの都市が点と点の協力を進めていくことを望んでいる。

(参考) 各国の実質GDP成長率 (年率、四半期)

(参考) 各国地域の実質GDP成長率 (前年比、%)

	2017	2018	2019	2020 (IMF 予測)	2021 (IMF 予測)
シンガポール	4.3	3.4	0.7	▲6.0	5.0
マレーシア	5.8	4.8	4.3	▲6.0	7.8
タイ	4.1	4.1	2.4	▲7.1	4.0
インドネシア	5.1	5.2	5.0	▲1.5	6.1
フィリピン	6.9	6.3	6.0	▲8.3	7.4
ベトナム	6.9	7.1	7.0	1.6	6.7
ブルネイ	1.3	0.1	3.9	0.1	3.2
カンボジア	7.0	7.5	7.1	▲2.8	6.8
ラオス	6.9	6.2	4.7*	0.2	4.8
ミャンマー	6.8	6.2*	6.6*	2.0	4.7
中国	6.8	6.6	6.1	1.9	8.2
香港	3.8	2.8	-1.2	▲7.5	3.7
台湾	3.3	2.7	2.7	0.0	3.2
インド	7.0	6.1	4	▲10.3	8.8

(出所) EIU (*はestimate), CEIC



(参考) ASEAN各国・地域の規模(2018年)

	面積	人口	名目GDP	1人当たり GDP	貿易総額	対内直接投資 (フロー) 億米ドル (2017)	日系コミュニティー (2017)	
	千Km2	百万人	億米ドル	米ドル	億米ドル		在留邦人数	日系企業数
シンガポール	0.7	5.6	3,642	64,582	6,151	620	36,423	1,199
マレーシア	330	32	3,543	11,239	5,525	95	24,411	1,295
タイ	513	69	5,050	7,274	5,011	76	72,754	3,925
インドネシア	1,913	268	10,422	3,894	3,915	231	19,717	1,911
フィリピン	300	107	3,309	3,103	2,330	95	16,570	1,502
ベトナム	331	96	2,449	2,564	5,490	141	17,266	1,816
ブルネイ	5.8	0.4	136	31,628	109	-0.4	170	15
カンボジア	181	16	246	1,512	465	28	3,518	309
ラオス	237	7.1	181	2,568	130	8	863	135
ミャンマー	677	54	712	1,326	442	43	2,608	438
ASEAN 合計	4,489	654	29,690	4,540	29,567	1,337	194,300	12,545
日本との比較	11.9倍	5.2倍	0.6倍	0.1倍	2.0倍	12.9倍	—	—
日本	378	127	49,709	39,287	14,602	104	—	—
中国 (大陸)	9,563	1,393	136,082	9,771	45,078	1,363	98,635	30,945
香港	1.1	7.5	3,630	48,717	7,582	1,043	25,527	1,404
台湾	36	24	5,890	25,026	7,263	33	21,054	1,179
韓国	100	52	16,194	31,363	11,540	171	39,778	945
インド	3,287	1,353	27,263	2,016	8,141	399	9,197	4,805

(出所)世界銀行、IMF、UNCTAD、日本外務省統計等から作成(数値は2019年9月作成時点)